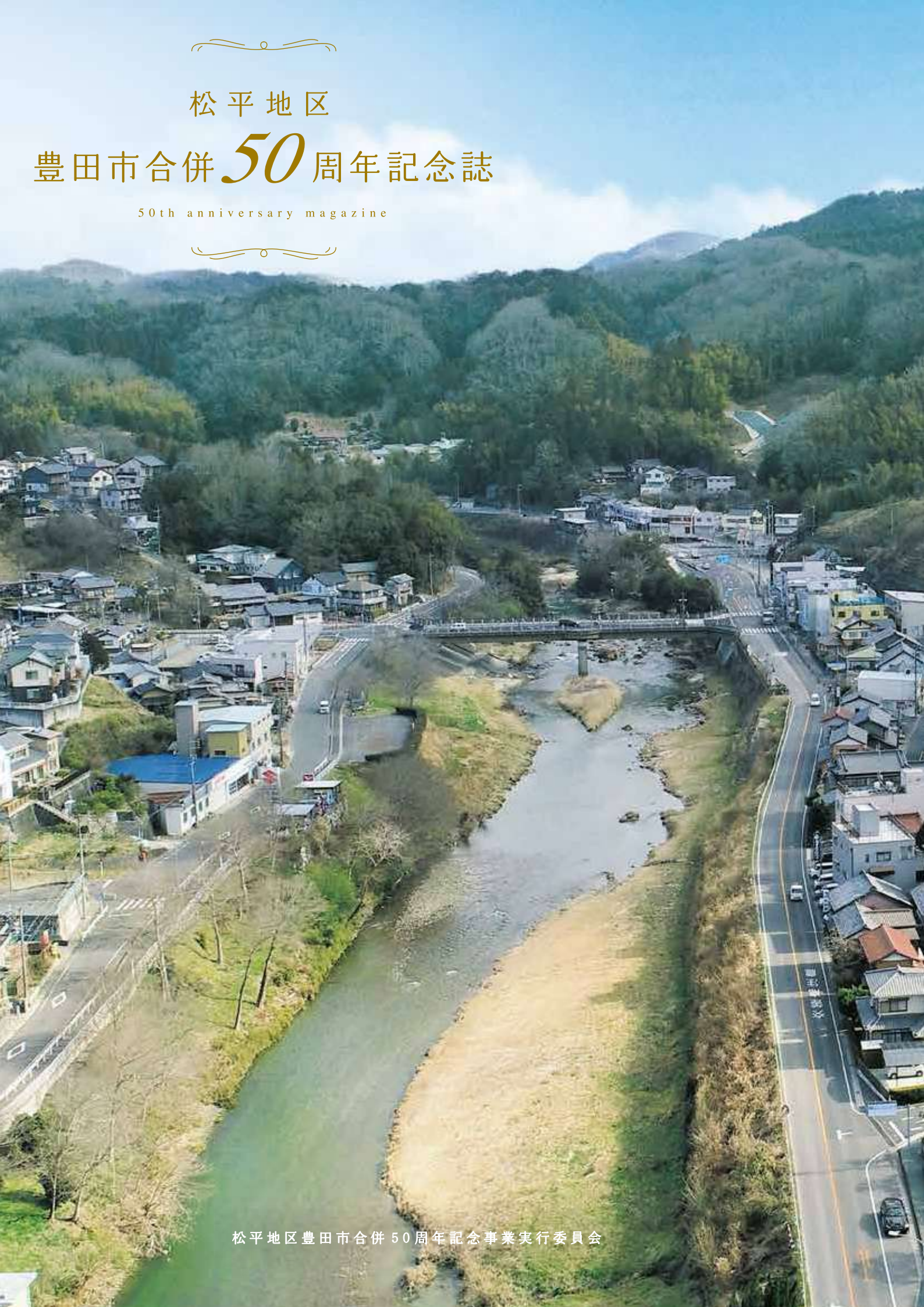
松平地区
豊田市合併50周年記念誌

50th anniversary magazine



松平地区豊田市合併50周年記念事業実行委員会

松平地区

豊田市合併50周年記念誌

50th anniversary magazine

樹齢 400 年以上のスギ・ヒノキの
巨木が混生している六所山原生林

松平地区豊田市合併50周年記念誌巻頭ごあいさつ

松平地区豊田市合併50周年
記念事業実行委員会
会長　中根　計二

昭和45年4月に、松平地区は豊田市に編入合併しました。当時、私は、大学4年生で岡崎市内の大学にバスで通学していました。県道は、道幅も狭く砂利道でした。時折は、ボンネットのある旧型のバスが走っていました。

勿論、住宅開発も進んでおらず人口は、6635人、1385世帯でした。

合併問題が浮上した際は、交通の便が良く通勤者や通学者も少なくなかった岡崎市との合併も協議されていたと聞いています。

しかし、住民の多くが豊田市内の工場に勤務しているため、豊田市との合併が決定したと聞いています。

平成20年に前県議会議員三浦先生のご指導を仰ぎながら「松平地域まちづくり対策協議会」が発足しました。平成21年度策定の『松平地域まちづくり構想』に基づき、下山地区に建設されるトヨタ自動車の研究施設の影響を踏まえながら、松平の自然・歴史・文化を生かした地域づくり、インフラ整備、健康づくり、地域交通の充実を目指した対策が進められています。また、中学校の北には、地域体育館や屋根付き広場が建設されています。今後は、ここを拠点にして松平の文化や伝統芸能などの発信や地域のコミュニティ活動の活性化が期待されています。

「広がる未来　つながる心　WE　LOVE　松平」のスローガンのもと松平地区に住む私たちが、これらの施設を大いに活用して、住民同士のコミュニケーションを高め、安心安全な地域づくり、歴史と里山を楽しむまちづくりを推進していきたいものです。

最後に松平地区豊田市合併50周年記念事業にあたり、ご寄付やご尽力をいただいたみなさまに感謝し、私のあいさつといたします。

豊田市長　太田　稔彦

松平地区が豊田市と合併50周年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

松平地区は、徳川の始祖である松平氏発祥の地として広く知られ、多くの人が訪れる王滝渓谷など豊かな自然と地域資源が豊富な地域です。

また、棒の手や和太鼓などの次世代への継承、金魚花火やわくわくフェスタ等のイベントを通じ、多世代の交流を生み出すなど、住民の皆様が一体となって地域の魅力を磨き、活気あふれるまちづくりに積極的に取り組んでおられます。

このような皆様の取組に対して心から敬意を表するとともに、地域に対する愛着や誇りである「WE　LOVE　松平」の精神を強く感じるところです。

本市は、第8次豊田市総合計画基本構想において「つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた」を将来都市像に掲げ、「WE LOVE　とよた」の取組を推進しています。

今後も「わくわくする世界一楽しいふるさと」を目指し、共働による持続可能なまちの実現に向けた取組を進めてまいりますので、皆様におかれましては、本市の発展のためご協力をお願い申し上げます。

おわりに、本誌の編集に当たりご尽力いただきました関係者の皆様に心より敬意を表するとともに、松平地区のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

Index

006 松平地区の概要

008 松平地区の移り変わり

009 自治区紹介・小学校紹介

036 50 年のあゆみ

054 松平郷の歴史

056 松平郷を語る

060 インタビュー 松平わ太鼓、松平棒の手

064 手筒花火 × 天下祭対談

068 松平交流館祭とわくわく事業

070 磯村選手インタビュー

074 U ターン・I ターン移住者インタビュー

078 スローガン、絵画、作文紹介「大好きな松平」

085 地域バス 松平ともえ号

086 幼稚園・こども園紹介「未来へつながるガーランド」

088 中学校紹介

090 松平地区豊田市合併 50 周年記念座談会

096 松平地域まちづくり対策協議会の取り組み

100 巴川

102 歴代区長・功労者の紹介

104 松平地区わくわく事業一覧

106 データで見る松平

108 協賛企業紹介

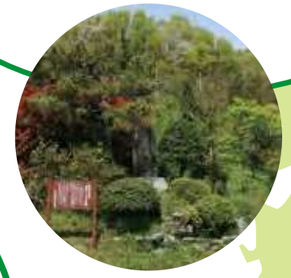
122 わたしの思い出

126 懐かしのひとコマ

128 あとがき

松平地区の概要

松平地区は徳川氏のルーツとなった松平氏の発祥の地「松平郷」を抱える歴史のまちであり、巴川、六所山、王滝渓谷などの豊かな自然を有する地域でもある。豊田市街地からも近く、合併当時に約6600人だった人口はこの50年間で巴川周辺を中心に約9500人にまで増加した。地域体育館と屋根付き多目的広場を備える防災・スポーツの拠点も間もなく完成し、新たな時代を迎える。その一方で、巴川以東の中山間地エリアでは少子高齢化・過疎化が大きな課題となっており、都市部からの移住定住の促進に向けた取り組みが始まっている。



酒呑ジュリンナ遺跡

幸海町には縄文時代草創期の数少ない遺跡「酒呑ジュリンナ遺跡」がある。名古屋大学の発掘調査で、紀元前からこの地で人々の生活が営まれていたことが解っている。

王滝渓谷

巴川の支流仁王川にある約1.8㎞の渓谷部。遊歩道からは巨岩や奇岩、四季折々の自然景観が人々の目を楽しませている。上流にある古美山園地の岩山はフリークライミングの愛好家に人気だ。

巴川

巴川は矢作川最大の支流。江戸期から大正初期まで舟運が盛んで、矢作川河口から塩をはじめとする海産物の輸送に使われた。松平地区の川湊で陸揚げされた荷物は、馬の背で足助街道（塩の道）を経て信州方面へ運ばれていた。

六所山

猿投山（猿投神社）、本宮山（砥鹿神社）とならび三河三霊山とされている六所山（六所神社）。愛知高原国定公園の一部で原生林もあり、標高611mの山頂からは尾張・三河を一望できる。登山愛好家に人気の山だ。

松平郷

松平氏の発祥の地「松平郷」。松平東照宮から高月院にかけての2haは「松平郷園地」として整備され、歴史の風情や山野草を楽しめる散策道がある。東照宮の敷地内には松平氏の遺品などを展示する松平郷館や、徳川家康公の誕生時にも使われたと伝わる産湯の井戸がある。毎年2月には裸まつり天下祭が行われ多くの観客が訪れる。

幸海町
石楠
穂積町
王滝
松平志賀町
鍋田
坂上町
巴町
鵜ケ瀬町
豊松
岩倉東
大内
九久平
岩倉南
林添町
岩倉西
松平
中垣内町
加茂川町
桂野町
滝脇町
長沢町

※地図は自治区名です

坂上町東宮口（昭和48年）

滝脇町（昭和50年）

長沢町（昭和51年）

松平地区の移り変わり

明治初年

- 白瀬村、西野村、酒呑村、重田和村、二本木村
- 六ツ木村、赤原村、岩倉村
- 大給村、桂野村、鍋田村、川向村、曲村、中村、林添村、中垣内村、下河内村、七売村、九久平村、滝脇村
- 西長沢（西大沼）村
- 遊平村
- 松平村
- 東宮口村、羽明村、真垣内村、大津村、簗山村、二口村、槍立村、下屋敷村、椿木村、所石村、歌石村、杉木村、大田村、仁王村、茅原村、正作村、大楠村、南篠平村、日明村

則定村
霜山村

長沢村

下平村
岩谷村

明治22年10月1日

- 穂積村
- 組合村設立
- 志賀村
- 小川村
- 松平村
- 組合村設立
- 豊栄村

分村

分村

盛岡村へ合併
旧則定村
旧霜山村

盛岡村へ合併
旧下平村
旧岩谷村

明治39年5月1日
松平村

昭和36年11月1日
松平町

昭和45年4月1日
豊田市に編入合併

九久平旧道（昭和41年）

松平志賀町（昭和51年）

大内町（昭和49年）

幸海町

幸穂台団地への第2世代定着に期待

幸海町自治区には、比較的緩やかな地形の「酒呑地区」、巴川沿いの「白瀬地区」、平成9年から入居が始まった「幸穂台団地地区」の3地区がある。

酒呑地区は巴川支流の白山川の最上流部。南北両側が山に囲まれているものの比較的平坦で、開けたところに46戸の集落がある。

白瀬地区は巴川右岸の急峻な地形に12戸の集落がある。大正9年にできた水力発電所「白瀬発電所」が現在も中部電力によって現役で使われている。

幸穂台団地地区は幸海町と穂積町の境に開発された新しい住宅団地で、幸海町側には3丁目と4丁目がある。この団地は幸海小学校の児童数減少に歯止めをかけて適正規模を確保する目的で、市が2世帯住宅を想定して開発した。開発面積は18・7ヘクタールで、現在142戸が入居している。30歳前後が中心だった入居第一世代は現在50代半ばに差し掛かり、10年後には高齢者に仲間入りする。第二世代の定着が期待されている。

幸海町自治区の高齢化率は新しい幸穂台団地があるためまだ低いが、今後は当然高くなっていく。平成20年度に最多の267名だった幸海小学校の児童数も令和2年度には48名と大きく減少している。

酒呑から幸海へ

「幸海」の地名は、酒呑（シャチノミ）→サチノミ→サチノウミ→幸の海→幸海と変化したと言われ、学校名として明治9年から使われてきた。〝酒呑学校〟では都合が悪いと考えた当時の大人たちの気持ちを考えるとおもしろい。なお、酒呑という地名の由来は定かでないようだ。

昭和36年の松平町制施行時には、学校名だけでなく地名も「酒呑」から松平町大字幸海東へと変更。さらに昭和45年の豊田市幸海町への編入合併で豊田市幸海町となった。

酒呑ジュリンナ遺跡

酒呑地区にある「酒呑ジュリンナ遺跡」は縄文時代草創期の数少ない遺跡の一つで、旧石器文化と新石器文化の接点にあたる時代のものと言われている。紀元前からこの地で人々の生活が営まれていた証だ。昭和41年と43年には名古屋大学考古学教室が遺跡の発掘調査を行い、局部磨製石斧、槍先形石器、砥石、細隆起線文土器などが出土した。「ジュリンナ」は字名。〝水気の多い〟を意味する「じゅるい」が変化して「ジュリンナ」になったと言われている。

平成9年から毎年11月に幸海町・穂積町・幸穂台が協力しあい、『協力・助け合い・つながりの輪を広げ交流する』をテーマにふれあいまつりを開催しています。模擬店、防災訓練を兼ねての炊き出しなど、毎回300人程度が楽しい半日を過ごします。今年はコロナ禍で中止になりましたが今後も続けたいと思います。

令和2年度 区長
楫本 太四郎さん

酒呑ジュリンナ遺跡

自治区旗の由来

幸海町の『K』、『のびのび元気に過ごせる自然がいっぱいのこの地域』（絵の黄色の部分）、『地域の輪を大切にしたい』（白色の部分）という願いから作成。

自治区データ

世帯数	199世帯
人口	748人
平均年齢	41.44歳
高齢化率	16%
面積	253.7ha
自治区たより	塩の道
集会所	幸海町集会所

※P11～36に掲載の自治区データは令和2年4月現在のものです。
世帯数は自治区加入世帯です。

幸穂台入口石碑

ふれあい祭り朝市

穂積町

自治区旗の由来

穂積の名の示す通り稲穂の豊かな実りと区民の和合を表しています。

穂積製糸跡

新旧住民が協力し合う地域

穂積町自治区は自然に恵まれた静かな地域でありながら、豊田市駅まで車で約15分と近い。近くに東海環状自動車道の豊田松平ICや鞍ヶ池スマートICが出来て更に交通の便が良くなった。

この地域は明治22年の町村合併で酒呑・白瀬・重田和・西野・二本木・則定・霧山の7集落を併せて穂積村となり、続いて明治39年に穂積村が他の4村と合併して松平村となった(則定と霧山は足助へ)。

昭和36年の松平町制施行時には、旧集落の重田和・西野・二本木で「幸海西」を構成。さらに昭和45年に松平町が豊田市へ編入合併して穂積町自治区が誕生した。その後、平成9年に新しい幸穂台団地の1丁目・2丁目が自治区に加わり現在に至っている。新旧住民が互いに協力しあい円滑な関係を保っている地域だ。

岡崎と足助をむすぶ七里街道

岡崎と足助を結ぶ街道は距離が七里あることから「七里街道」と呼ばれ、明治時代まで巴川の右岸、今の岩倉町から穂積を通り足助へと続いていた。往時には塩を始めとする物資の輸送に使われ、遠く信州の善光寺や坐光寺(元善光寺)、御嶽山へお詣りする人々も行き来して賑わったと伝えられている。

産業遺産　穂積製糸跡

明治から大正にかけての養蚕業が盛んだった時代には、繭(まゆ)から生糸(きいと)をとる製糸工場「穂積製糸」があった。人力から機械製糸へと拡大し、動力は蒸気機関を用いていた。

明治38年から大正2年にかけての最盛期には従業員120名が働く一大工場となって地域の産業を支えていたが、大正9年に日米の生糸取引が途絶えたのを機に工場は閉鎖された。現在はその跡地に石碑と説明看板がひっそりと立っている。

自治区規約の前文

平成11年に定められた穂積町自治区の規約前文には次のとおり記されている。次の世代に受け継いでいきたい想いだ。

―豊田市民としての自覚と責任及び相互の信頼と協力に基づき、安らぎと潤いに満ちたよりよい社会を構築する。そのため、穂積町、幸海町、幸穂台の3地域は絆を大切にして、幸海小学校コミュニティ会議の趣旨を踏まえて、ふれあい豊かな住みよい地域社会を創造することを各地域三位一体の共通理念とする―

ふれあい祭り

自治区データ

世帯数……145世帯
人口……532人
平均年齢……42.99歳
高齢化率……17%
面積……203.4ha
自治区たより……塩の道
集会所……穂積町区民会館

穂積町には、昔ながらの山村文化も残る旧集落60戸と、24年ほど前にできた幸穂台団地87戸が共存しています。環境美化等には、団地の人たちが旧集落の応援にきてくれたり、旧集落のお祭りには、団地の人たちにきてもらったりと、互いに協力しあい、新旧住民が仲良く友好的に融和している自治区です。

令和2年度 区長
鈴木 耐司さん

小学校紹介 01

幸海小学校

School Data

所在地	幸海町下御堂下切14-1
開　校	明治6年11月
生徒数	48名（令和2年度）

『幸せが海のように広がる学校』を合言葉に、児童だけでなく保護者、教員も活きいきと輝ける学校を目指している。「ふるさとを知ろう」のテーマのもと、毎年行われる「春のふるさと探し」「秋のふるさとウォーク」では、児童たちが地域の歴史、産業、自然にまつわる場所などを訪ねている。そこで暮らす人、働く人の話を聞きながら、松平の特色を様々な角度から学ぶとともに、地域の人との交流を深めている。

幸海小学校で聞きました 学校・学校区のいいところ

6年生
中武 晴さん

幸海地区は、四季の移りかわりを感じられる豊かな自然があります。春は山桜がさき、夏はかえるやせみの大合唱、秋は山が赤や黄色にそまります。白山川では、6月に蛍が見られます。ぼくは、自然豊かな幸海地区が大好きです。

5年生
柘植 晴人さん

学区の穂積町に、穂積製糸工場跡があります。明治時代にあった大きな工場で、この会社のおかげで地域の人の生活も豊かになったそうです。100年前の貴重なものが残る場所で秋には紅葉がきれいになります。

皆福寺は、約800年前に作られ古いれきしがあります。庭が広く、周りに自然がたくさんあります。12月31日のおおみそかにじょやのかねをならしたり、子どもが楽しむイベントがあったりして、周りの人に親しまれています。

4年生
石川 莉帆さん

3年生
大村 希実さん

学校のまわりには、山や川がいっぱいあって、空気がとてもきれいです。自ぜんの空気は気持ちがいいです。山からは、いろいろな鳥の鳴く声がします。わたしは、その音色がすごくきれいで、ずっと聞きたくなります。

こう海小学校のいいところは、みんながなかよくあそべるところです。休み時間には、おにごっこやサッカーなど、どの学年もいっしょになってあそんでいます。これからもみんなとなかよくすごしていきたいです。

2年生
伊神 歩さん

1年生
友成 和馬さん

こうかい小学校のいいところは、しぜんがたくさんあるところです。トゲナナフシやショウリョウバッタやハラビロカマキリやナナホシテントウ、トノサマガエルやメダカがいます。とてもたのしいです。

松平志賀町

ふれあい祭り

東海環状道完成で豊田市の玄関口に

松平志賀町では昭和62年に松平団地が分譲され、さらに2カ所の団地分譲で人口が増えた地域だ。国道301号と東海環状自動車道の豊田松平インターチェンジがあり、歴史のまち松平郷への玄関口であると同時に、豊田市中心部への東の玄関口にもなった。

このように豊田松平インターチェンジの完成で交通の利便性は向上したが、その反面、交通量の増加で事故も増えている。またインターチェンジが近いため侵入盗や乗物盗などの犯罪も増加しており、自治区の課題の一つになっている。

トヨタ自動車の下山テストコースが完成すると国道301号周辺の交通量はさらに増えると予想され、朝夕の交通渋滞も心配される。交通安全への対策も今後の大きな課題だろう。

名所・旧跡

●開田組合ポンプ場

昭和20年代後半から10数年間、巴川から20mほども高い中沢地区、岩倉地区の水田に水を送っていたポンプ場。その恩恵で山間地域にしてはとても広い水田があった。

●玉泉寺の大曼荼羅絵

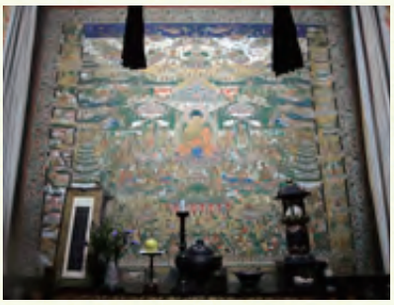
曼荼羅（まんだら）絵とは仏や菩薩などの尊像を絹や紙に描いたもの。玉泉寺の大曼荼羅絵は4・5m四方の大仏画で、明治中期から大正初期にかけて近傍に名高かった颯田海雲（さったかいうん）和尚の時代のもの。奈良當麻寺の「中将姫の浄土曼荼羅」を拝し、感銘を受けて曼荼羅に傾倒したと言われる。村人は海雲和尚を「まんだら和尚」と呼んでいたという。

玉泉寺にはまた、颯田海雲和尚が収集した2500冊の蔵書「海雲文庫」が現存している。木版や写本など様々で、大蔵経、経論、因縁法話など仏教書のほか、四書五経、義経記三河風土記などの多くの書物が揃っている。歴史的にも文化的にも一見に値する蔵書の数々だ。

●志賀神社

松平志賀町には「六ツ木志賀神社」と「赤原志賀神社」がある。創建は明らかでないものの、六ツ木志賀神社の由緒によると江戸中期の享保年間に赤原村の神社を合併していることから、それ以前から有ったようだ。かつては「八王子権現」と称していた。

豊田松平インター付近


玉泉寺の大曼荼羅絵

志賀神社

自治区データ

世帯数	276世帯
人口	887人
平均年齢	46.4歳
高齢化率	25%
面積	122.8ha
自治区たより	けやき
集会所	松平志賀町区民会館

松平志賀町は、六ツ木、赤原、マゴイチ地区で構成されて、互いに協力しあい活動しています。子どもたちや高齢者が安心安全に暮らせる自治区を目指します。国道301号と東海環状道の豊田松平ＩＣもあり、さらに交通量が増えると予想され、交通安全への対策も今後の大きな課題です。

令和2年度 区長
鈴木 隆之さん

自治区旗の由来

三つの輪は、六ツ木・赤原・マゴイチを表し、共に手を携え、互いに協力し合う団結力を表しています

岩倉東

自治区旗の由来

自治区民の温かく思いやる気持ちを表す色を背景に、松と巴川の流れと安心安全な地域をイメージしている。

人口急増で3自治区に分離

岩倉東自治区は松平地区の中で最も世帯数の多い自治区で、松平志賀町と巴町に隣接し東側には巴川が流れている。

この地の生活の歴史は鎌倉時代にさかのぼる。江戸時代には三河国加茂郡岩倉村の平古村（組）と呼ばれ、30戸ほどが暮らしていた。当時の小字名が今も残っており、鵜ケ瀬前、柿田、馬場、平古、刈又…と呼ばれている。

明治22年の市町村制の施行により岩倉村は、六ツ木村・赤原村と合併して志賀村となり、さらに明治39年に近隣5村の合併で松平村大字岩倉になった。

昭和45年の豊田市への編入合併で豊田市岩倉町となり、その後の昭和57年、戸数の増加により岩倉町自治区を岩倉東・岩倉西・岩倉南の3自治区に分離した。

巴川の舟運と陸上輸送の中継地

地区の東側を流れる巴川は江戸時代から舟運（しゅうう）が盛んで、帆（ほ）と櫂（かい）を使った舟が行き来していた。平古の土場はその舟運と、足助・信州方面の陸上輸送との中継基地として重要な役割を果たしてきた。上流の山村からは薪、竹、木材が運ばれ、下流からは海産物、醤油などの生活必需品が運ばれていた。

常夜灯のいわれ

江戸後期の文政13年に建立され、以来200年近くにわたりこの地域を見守ってきた常夜灯。自治区内の辻に置かれたのは現代の街灯と同じ役割をもっていたと思われる。今もなお区民が当番制で灯明をあげて地域の防火、防災を願っている。

長老の記憶（昭和20年頃うまれ）

―清流巴川や緑の山々は変わらぬ美しさを見せていますが、岩倉東は40戸から500戸に増え、松平一の自治区になりました。

市営住宅の建設、企業を誘致しての雇用安定、簡易水道の敷設、電話の設置など、30年ほどの間に地域は驚くほど変わりました。

橋や道路などの整備も進みました。巴川ではかつて親子3人が乗った渡し舟が転覆し亡くなったという痛ましい事故があり、尊い犠牲のもと旧港橋が架けられました。

しかし巴川右岸は道路が低かったため、費用の無いなか住民総出で難儀して橋場の山を手作業で崩しては道路をかさ上げしました。この道路がやっと拡幅され歩道付になったのは平成25年のことです―

岩倉東は、巴川に沿って横に長い自治区です。宅地開発してできた比較的新しい地区ですが、巴川沿いに整備された散歩道の景観は、区内一番の絶景です。特に、晩秋の川沿いの夕景は、筆舌に尽くしがたいほど美しいです。今後も、この愛する故郷の風景を次世代に引き継いでいくことが自治区の使命です。

令和2年度 区長
小野田 勝己さん

川沿いの夕景

自治区データ

世帯数	491世帯
人口	1,459人
平均年齢	42.94歳
高齢化率	19%
面積	68.0ha
自治区たより	清流いわひがしだより
集会所	岩倉東公民館

常夜灯

平古の土場跡（現在は宅地となっている）

岩倉南

自治区旗の由来

一人一人輪になって支え、強固な絆を築く岩倉南

岩倉南の概要

岩倉南自治区は清流巴川に沿って東西に細長く、山河に囲まれた自然豊かな地域。その山間には広大な敷地と多くの施設を備えたフォレスタヒルズも有り、多くの市民の憩い場となっている。

東海環状自動車道と第2東名高速道路の完成で、自治区がジャンクションの中にすっぽりと収まるような状況になり、地上45mの高さに道路がそびえ立って風景が様変わりした。

由来・歴史

岩倉町はかつて現在の渡合町あたりまで含んでいたようだ。付近一帯の山には古墳が数箇所あり、矢作川と巴川にはさまれた丘陵地を絶好の生活の場として古くから人が住みついていたことが伺える。山々に大きな岩がゴロゴロとしていることから「岩倉」と名付けられたと言われている。

巨石 金比羅さん

矢作川と巴川を利用した舟運は江戸末期に始まり、昭和初期まで行なわれていた。川底が浅いため、底の浅い船で帆をかけ、櫂でこぎ、上流からは木材、薪、米、竹などを運搬していた。下流からは塩、海産物、醤油、肥料などの生活必需品を運び、ここで陸あげして足助、信州方面へ陸上輸送されていた。

昭和10年ころからは自動車の発達により舟運は衰退。ガラ紡工場や養蚕が生計の基となり、さらにトヨタ自動車の発展と共に兼業農家で工場勤務の人が多くなった。

自治区内の施設

●志賀神社

古くは八王子大権現と呼ばれ、室町時代中期の応仁元年に再建された。創建はそれよりかなり古い。明治6年に志賀神社と改名された。毎年10月の秋祭りは岩倉東・西・南の3自治区で盛り上がる。

●フォレスタヒルズ

トヨタ自動車系の総合余暇施設で平成5年にオープン。ホテルや結婚式場、スポーツ施設等を備えている。併設している環境学習施設「トヨタの森」では、里山で暮らす生きものについて多くの子どもたちが学んでいる。

自治区のほぼ全域が土砂災害警戒区域

近年全国各地で想定外の豪雨災害が多発している。岩倉南自治区はほぼ全域が土砂災害警戒区域であり、また生活道路は毎年のように冠水する場所もあって緊急避難も心配である。治山土砂対策や道路の冠水対策が急務だ。

岩倉南自治区は、巴川と山に囲まれて自然を身近に感じる住みよい地域です。安全で気持ちよく歩ける川沿いの歩道は、ウォーキング利用者に人気です。また、岩倉という地名のとおり巨石と信仰により多くの神仏が祀られています。無病息災・家内安全、この地に安住の願いを込めた先人の思いを知ります。

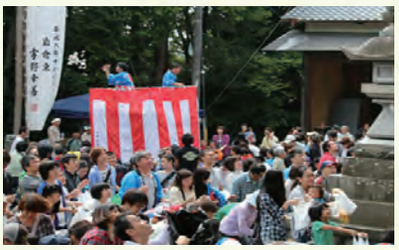
令和2年度 区長
成田 正人さん

志賀神社

自治区データ

世帯数	60世帯
人口	226人
平均年齢	48.72歳
高齢化率	37%
面積	123.1ha
集会所	岩倉南公民館

フォレスタヒルズ



志賀神社祭の様子

岩倉西

IWANISHI

自治区旗の由来

東海環状自動車道、新東名高速道路の通過地及びジャンクションの建設が自治区内中央に決定し工事が始まった。そのジャンクションをデザイン化したもの。

豊田東ジャンクション

岩倉西の概要

岩倉西は松平地区の西端の高台に位置し、西の矢作川、南の巴川にはさまれた地域。古代より人が暮らしていたと言われる。また盤座（イワクラ）と称されるほど岩盤の多い地域だ。

豊田市への編入合併以前、上室に松平町営住宅が20戸建設され、トヨタ自動車本社に近いため直ぐに満室となった。合併後は市営住宅となったが老朽化が進み、平成になってから徐々に取り壊された。現在は「ちびっこ広場」として子どもの遊び場となっている。

岡崎花火発祥の地

岩倉西はかつて花火づくりが盛んな郷で、志賀神社の秋の大祭には奉納花火の競演が行われていた。花火の流儀は「稲富流」であった。明治時代には金魚花火や打ち上げ花火、特に三寸、五寸、尺玉などに秘術を尽くして作っていたという。元祖は磯谷仙二郎で、その後、岡崎に移って現在の磯谷煙火店に発展し全国にその名が知れ渡った。

名所旧跡

●岩倉城

岩倉城には尾根上（109m）に位置する「岩倉城ノ浦城」と、山麓に位置する「岩倉城ノ浦館」があった。

尾根上の城ノ浦城は戦闘時や非常時に使われていたと考えられる。主郭は2段の曲輪で構成。中央に浅い堀の跡が残り、西端には低い土塁も巡っている。一方、山麓の城ノ浦館は日常的に利用されていたと考えられる。背後に土塁、堀切を設けている。

●高根神社

この地域で最も高い山の上に位置する。老朽化のため建て替えられ現在は石造の本殿と木造の拝殿とで参詣客を迎えている。本殿の隣に大きな岩、その奥にもう一つ大きな岩があり、それぞれ形状から「男性陽」「女性陽」と呼ばれ、昔も今も岩神として奉られている。

長老の記憶

―幼少の頃、我が家の桑園は現在の水源公園の地にあり、父は子どもがすっぽり入るような桑籠に60kgは入れて幅50cmほどの堰堤の上を天秤棒をかついで歩いて運んでいた。私は水量の見張り役をさせられた記憶がある。

小学生の頃、帆をかけた川舟が水源提を超えるのに上りは2日、下りは1日かかったと教えられた。水源堤の横には3軒の旅館があり昼間から三味線の音を聞いた記憶がある。

20～30代の頃、トヨタ自工本社へ通勤するのに最初は徒歩だったが、その後は自転車通勤に変わった。堰堤の上は自転車をかついで渡った―

花火発祥の地

岩倉城址

自治区データ

世帯数	57世帯
人口	220人
平均年齢	48.31歳
高齢化率	31%
面積	131.9ha
自治区たより	広報 たかね
集会所	岩倉西区民会館

当自治区には、東海環状自動車道、新東名高速道路の豊田東ジャンクションがあります。区旗の中央に、ジャンクションをデザインしたマークがあります。幹線道路の拡張整備、区民会館の移設建替えなどジャンクションが出来たことで恩恵を受けている事があります。

令和2年度 区長
礒谷 義貞さん

巴町

団地の全体図

豊田松平ICから近い新興住宅団地

巴町自治区は、東海環状自動車道の豊田松平インターチェンジから南へ約1㎞の小高い場所にある。山と巴川に囲まれており、新興住宅団地としては自然豊かな環境だ。

住民のほぼ全戸が地元以外からの転入者で、その多くは自動車関連企業で働いてマイホームを新築した人たちだ。全国各地から集まって来ているため、バラエティに富んだ自治区となっている。

自治区の歴史

巴町自治区は松平団地の造成が完了した昭和63年から入居が始まり、巴町自治区が平成2年に発足するまでは岩倉東自治区に入っていた。

自治区内には「カキタ」「神田」「細畑」の3地区があり、発足当初は3地区対抗の運動会が松平団地公園で開催されていた。

平成19年に巴町区民会館を新築している。

時計台

巴町の名所

●松平団地公園のハナノキの紅葉

山の紅葉よりも一足早く色付き、公園横を通過する他地区の人たちにも喜ばれている。

●松平団地公園の時計台&記念樹

平成7年に完成。

●区民会館のイルミネーション

建物・フェンス・樹木にイルミネーションを飾り付け、子ども会のクリスマス会の後、組長会メンバー一同でカウントダウン点灯式を実施している。

新興住宅地の課題 子どもが急激に減少

同世代の子育てファミリーが同じ時期に入居するという住宅団地開発に特有の弊害が生じている。入居開始から30年以上が経過して子どもの数が急激に減少しており、今後は高齢化が一斉に進むことになる。団地特有のお互いの面識が薄いという点に配慮した早めの企画・対応策が必要だ。

区民会館イルミネーション

区民会館

ハナノキ紅葉

自治区データ

世帯数	343世帯
人口	968人
平均年齢	48.22歳
高齢化率	15%
面積	13.1ha
自治区たより	ともえ
集会所	巴町区民会館

平成2年4月に正式に巴町自治区として発足しました。発足当時はともすれば、なかなか松平地域に馴染めなかった事もありましたが、あれから早30年を経て我々巴町自治区も、ようやく松平の一員として認めて頂けたかと思います。今後とも松平の巴町として宜しくお願いします。

令和2年度 区長
三好 隆章さん

自治区旗の由来

木戸天水先生書の「巴」を中央にデザインし、巴町内のカキタ、神田、細畑の3地区が協力し、より良い町にする想いを込めて星で表現。巴の字がデザインされている。

小学校紹介 02

岩倉小学校

School Data

所在地	岩倉町五ツ畑23
開　校	明治8年2月
生徒数	170名（令和2年度）

岩倉小学校では、椎茸栽培や米作り、竹細工などを通して、松平のよさを体験する活動を行っている。地元の人を講師に招く機会も多く、子ども達は活動を通して地域の風土や人に親しんでいる。広葉樹と竹林に囲まれた校庭に広がるのは、大切に育てている学級畑と椎茸ハウス、そして年季の入った竹炭窯。竹を子ども自ら切り出したり、巴川での水質調査やアユの放流を行うなど、豊かな自然に恵まれた環境を生かした活動も多い。

岩倉小学校で聞きました 学校・学校区のいいところ

岩倉小学校区のいい所は、自然がいっぱいあることです。特に、岩倉小学校は、森に囲まれていてとてもしずかです。その中でブランコをこぐのがわたしの1番のお気に入りです。自然がいっぱいなので、とても落ち着けます。

4年生
伊藤 由さん

いわくらしょうがっこうのいいところは、みどりがたくさんあってうんどうじょうがひろいところです。それと、おともだちみんながやさしいです。ぼくは、そんないわくらしょうがっこうがだいすきです。

2年生
後藤 颯太さん

3年生
吉本 維庵さん

岩倉小学校は自然がいっぱいあります。虫のかんさつをしたりはっぱを使って絵をかいたりします。じゅぎょうで野さいをうえて育てる体けんもできてとても勉強になって楽しいです。もっと学校の事を知りたいです。

3年生
田中 梨奈さん

岩倉小学校のいい所は、しぜんにたくさんふれる事ができる所です。きせつによってすがたを変化させ、いろんな花や木の実や虫を1年中かんさつできます。1年生から6年生までみんななかよく、明るい声がひびいています。

岩倉では、環境を守って、美化しようと環境美化作業をして岩倉の自然を守っています。安全のため自主防災活動や交通安全市民立哨なども行っています。地域を知る活動や祭りなどいろんな活動をしています。

ここのいい所は、人がやさしい所、自然がゆたかな所です。私は引っこして来て、わからないことだらけでしたが、とてもやさしく教えてくれました。ここは、緑が多く、川の近くは風がとても気持ちがいいです。

5年生
福下 夏彩さん

岩倉東自治区では七月の天王祭に白山神社の祭礼も合わせて行い「ちょうちん祭り」と呼ぶようになりました。地域の子供たちは、ほうずき提灯をつるした笹竹を持ってお参りをします。ちょうちんの数は家族の分と神様の分です。

6年生
成田 颯太さん

6年生
福永 蕾杜さん

巴川は、大きくてきれいです。巴川にかかっている港橋は塩の道とも言われています。馬が背荷物を運ぶモニュメントが建てられています。また、夏には金魚花火が行われます。川を流れる花火がとても美しいです。

6年生　中島 陽太さん

九久平

巴川舟運の発着で栄えた九久平山湊

岡崎から足助へ通じる足助街道は江戸時代からあり、その距離から「七里街道」と呼ばれていた。

岡崎と足助は巴川を通して結びつきが強く、九久平はその中間に位置して地形的にも良かったので「九久平山湊」ができた。巴川舟運の発着点・集積地として江戸時代前期から大いに繁栄した。

上流からの荷は、下山や新城、足助などから集まる木炭、材木、竹、タバコ、栗、しいたけ、柿などで、九久平山湊でまとめて舟で下流へ送られた。

下流からの荷は、岡崎や大浜、武豊、半田などから運ばれてくる塩、魚、海藻、陶器、米、味噌、綿、酒、酢などの生活物資で、荷あげして馬の背、馬車、大八車で山間部へ運ばれた。信州の塩尻はそうした荷の終着点だ。

明治の末頃、九久平には50店舗以上の店があり賑わいをみせたが、大正の中期ごろから物資の輸送に自動車が使われるようになり、舟運や馬は少なくなっていった。

昭和35年頃からは、自動車産業が発展した豊田市との結びつきが強くなり、昭和45年に松平町は豊田市へ編入合併した。

名所・旧跡

●松生嶋

巴川最大の島で、七里街道の景勝として枝ぶりの良い松が生い茂っていたためこの名があると言われる。7月には川の神弁財天を祀るお宮の祭りがあり近隣の人々で賑わった。昭和16年頃に中止されたが、現在この祭りを起源とする金魚花火祭りが松平地区全域の協力で行われている。

社の傍らにある自然石の石碑には「枯れ枝に　鴉（からす）のとまりたり　秋の暮」と刻まれており、芭蕉のものと伝わる。石碑は芭蕉が元禄のころに立ち寄った記念碑だと言われる。なお、如風の句「鮎汲むや　七里街道　松生嶋」も残っている。

●岩谷山

全山が露出した花崗岩の巨石でできており絶壁もある。岩が重なり合い、その間には弘法大師や観音菩薩が祀ってある。山頂からの眺めは素晴らしく、フリークライミングの練習場としても親しまれている。

●名木の森

松平コミュニティセンターから南へ100mの県道西沿いに、ケヤキ、エノキ、クスノキ等が生えている。

エノキの枝には数多くのヤドリギが着生し、特異な景観を見せている。季節になるとカワセミ、ヤマセミ、キレンジャク、ヒレンジャクなどが飛来し、カメラや望遠鏡を持った人たちがバードウォッチングを楽しんでいる。

令和2年度 区長
山本 良彦さん

市内で現在まで残っている「おためし」は3か所あり、その中のひとつが松生嶋の「花の撓（はなのとう）」です。毎年5月10日に行っています。熱田神宮の豊年祭は毎年5月8日に行われ、そこに当日飾り物を描いた「熱田神宮豊年祭之図」が授与されているため、この図に基づき飾り付けを行っています。以前は、苗屋さん等が軒を連ねてにぎわっていました。

おためし

自治区データ

世帯数	289世帯
人口	919人
平均年齢	44.84歳
高齢化率	23%
面積	188.2ha
自治区たより	広報 九久平
集会所	九久平公民館

おためしを見る子ども達

岩谷山

自治区旗の由来

3本の曲線は、九久平を流れる川（巴川、滝川、山中川）を表現。5枚の桜の花びらは、九久平の5つの地域（九久平、日向、菅沼、山中、九久平団地）を表現しました。

九久平小学校区

鵜ケ瀬町

おまつり

「鵜ケ瀬」の由来は巴川の天然鮎

鵜ケ瀬町には県立松平高校や松平村役場跡がある。明治の中頃までは小川村大字九久平の一部だったが、明治の大合併で松平村が誕生した時に分離して大字鵜ケ瀬となった。この地名の由来は、付近の巴川に鮎が居着きやすい瀬があり、川鵜が集まったためと言われる。現在も鵜ケ瀬町の巴川は天然鮎の好釣り場で、多くの釣り人を見かける。

鵜ケ瀬町の変遷

かつて松平地区の代表的な産業だったガラ紡は、電気が引かれると鵜ケ瀬町でも始まり、戦後の最盛期には11軒を数えた。しかし世界恐慌や昭和恐慌などの影響で糸の価格が大暴落し、ガラ紡は急速に姿を消していった。

県立松平高校が開校したのは昭和45年。その20年ほど前から松平への全日制高校の誘致が行われており、防衛政務次官を務めていた浦野代議士がヘリコプターで飛来して、鵜ケ瀬町の台地が建設候補地に決まった。岩盤のある難工事だったが、幸い岩の質が良かったため松平石工組合が切り出しを請け負った。

鵜ケ瀬町は南北に巴川と足助街道（県道岡崎足助線）が通り、平地が少ないことも伴い、2005年と2011年に住宅団地が完成。世帯数が約3倍に増えて平均年齢も若返った。新しい住民たちも積極的に地域へ溶け込もうとする意欲があり、自治区のまとまりもいい。

名所・旧跡

●ミロナイトの露出

鵜ケ瀬神社下の側面に、伊奈川花崗岩が断層によって破砕され圧砕岩（ミロナイト）となって露出している場所がある。鉱物が砕けていたり粘土化したりしている様子がみられる。

●馬頭観音碑

江戸時代には家畜の守護神、旅の道中の安全を守る菩薩として道端や集落のはずれなどに石仏像が置かれるようになった。巴川沿いの道端にも多くの馬頭観音の立像や石碑が置かれており、馬が重要な物流手段だったことを物語っている。なかでも鵜ケ瀬町のものは立派だ。

●川中不動

水害防除祈願の川中不動は、足助街道沿いの通称「お不動さん」と呼ばれる所に安置されている。明治26年以前は道路が川面に近く、増水のたびに被害があったという。お不動さんには道路の改修等によって集められたものと思われる馬頭観音4体も一緒に安置されている。

敬老会

餅つき

自治区旗の由来

区旗は町名のイニシャルUと巴川の流れ、そして住む人をイメージして図案化している。青い背景は巴川の清流を連想させる。

自治区データ

世帯数	169世帯
人口	614人
平均年齢	35.68歳
高齢化率	12%
面積	50.9ha
自治区たより	鵜ケ瀬 うがせだより
集会所	鵜ケ瀬町区民会館

鵜ケ瀬町は、平成17年と平成23年に団地ができ約3倍の世帯数になり、平均年齢も一気に若返り子どもも増えました。通学風景を見ているとこれからの時代に期待ができます。団地の住民は全国各地から来ましたが、子どもたちには、ここがふるさとです。自治区みんなで子どもたちを育てていきます。

令和2年度 区長
黒柳 博和さん

九久平小学校区

中垣内町

自治区旗の由来

中垣内の「中」と巴川の流れを背景にイメージし、区民がお互いに和をもって団結する様を表現している。

イチョウの木

クロガネモチの木

スギ・モミの木

新旧住民が融合

中垣内町自治区は巴川と岡崎・足助街道（県道39号）沿いを中心に200戸を超える民家が建ちならんでいる。昭和55年頃から新興住宅が建設され始めて若い世帯も増加してきた。平成9年に新区民会館が建設されたのを機に新旧住民の融合も進んでいる。

地域の古い歴史についての詳細は分かっていないが、江戸時代の徳山寺の寺号云々の中に「三州中垣内村」の記載がある。昭和45年の豊田市への合併を機に40戸の中垣内と15戸の中村が一緒になり、50戸を超える中垣内が誕生した。

数十年前の三河地震や伊勢湾台風では家屋の倒壊や土砂崩れなどがあったが、最近では自然災害による大きな被害は無い。地質・地形的に安定していて住みやすい地域だ。

地域内には名木が多く、神明社のスギとモミ、2組地内のイチョウ、市杵嶋神社のクロガネモチ等の見事な木がある。

古戦場跡「円川碑」

室町時代中期の応仁・文明（1467～1486）の頃、大給城攻略のために岩津城を発した松平宗家3代信光の軍と、これを迎撃した長坂新左衛門（大給城主）、岩倉源兵衛（岩倉城主）等の連合軍が円川（現在の中垣内町弁天）で戦っており、この時の戦没者のために建てられた「円川碑」が今も残っている。戦いは大給側連合軍が敗北し、松平宗家4代親忠の次男乗元が大給松平家の祖となった。

せせらぎの里祭り

数十年前までは神明社、市杵嶋神社ともに農村舞台を有しており、秋祭りには芝居や映画の上映、屋台などが出て地域住民は夜遅くまで楽しんでいた。

現在は区民会館竣工記念から始まった「せせらぎの里祭り」が区民総出の楽しいイベントになっている。また、12月の「季節を楽しむ会」も年の暮れにちなんで、おでんや手作り料理を囲んでの楽しい集いとなっている。

高齢者の移動が課題

課題としては公共交通機関が少なく自家用車頼りのため、高齢者には不便なことが挙げられる。また、少子高齢化が進み地域の伝統文化の継承や耕作放棄地の増加などが心配されている。

平成9年3月区民待望の区民会館が竣工し、会議・諸行事が円滑に運営できるようになりました。また、新しく転居されてくる人が増加し、現在では200世帯を超えました。旧住民との融合もうまくいき、今後さらに融和し絆が強固な自治区になることを期待します。

令和2年度 区長
中根 計二さん

「円川碑」（つぶらかわのひ）古戦場跡

せせらぎの里祭り

自治区データ

世帯数	202世帯
人口	641人
平均年齢	43.70歳
高齢化率	20%
面積	143.6ha
自治区たより	中の郷
集会所	中垣内町区民会館

桂野町

地域の課題

桂野町自治区は松平地区の南西部に位置し、郡界川沿いの自然豊かな山あいにある。川の対岸は岡崎市で、新東名高速道路の岡崎サービスエリアからほど近く、豊田市の中心部までは10㎞ほどの距離だ。

桂野町は長年続いた岡崎市の学校区から、平成24年に豊田市に変更し、30名余りの小中学生は、ともえ号や通学バスでの通学を行なっている。一方で、町民の高齢化も進んでおり、健康福祉対策や生きがいづくりも課題だ。

なお昭和61年から自治区内に大規模な事業所が操業しており、防災・防犯など多くの面で地区住民と事業所の連携を深めていきたい考えだ。

松平でガラ紡を最初に始めた地域

この地に人が住み着いたのは南北朝時代からと思われる。江戸後期の嘉永3年（1850年）に農業用水路の工事が始まって開発が進んだと思われるが、中馬街道など主要な交通路からは外れた孤島のような村だった。

松平地区で盛んだった「ガラ紡」が最初に始められたのが桂野町だった。郡界川の豊富な水量を活かし、明治13年（1880年）に造り酒屋を営んでいた宮本六太郎氏が水車を動力に始めた。ガラ紡の最盛期は第1次世界大戦の前後、第2次世界大戦の後で、村中が活気に溢れていたという。

名所旧跡

町内には神明神社、津島神社、秋葉神社が祀られている。

神明神社の旧本殿（現在は津島神社の本殿として使用）は江戸中期の元禄16年（1703年）建立で、三軒社、切妻造、神明造の変形となっている。豊田市内でも古い社殿と言える。境内にある農村舞台は昭和30年に再建されたもので、その当時は芝居も上演されていた。

醫王山華蔵院は戦国時代の永禄7年創建と伝えられている。浄土宗で本尊は阿弥陀如来。薬師堂もあり、薬師如来坐像は市の有形文化財に指定されている。

町内の山手頂上付近には遠見岩や八畳岩などと呼ばれる巨石群がある。平成28年から実施された県の里山再生事業を継承し、町内有志（水土里の会）による里山保全活動が行われ、里山にはツリーハウスや遊具も作られ、町民の憩いの場となっている。令和元年には活動が評価され、愛知県知事表彰を受けた。

桂野町は、世帯数67戸の自治区で、高齢化が進む一方、中学生以下の子どもたちも50名と多く、ふれあい夏祭りや里山を歩く会などの行事では、世代を問わず笑顔の絶えない楽しい会を開催している。これからも町民の皆さんと安心安全で住みよく楽しいまちづくりを目指していきます。

令和2年度 区長
柴田 信之さん

自治区旗の由来

桂野町のK、T、R、Nの中心に、区民全員がAと共に、仲良く丸く収まっている様子を表している。

ツリーハウス

自治区データ

世帯数	67世帯
人口	269人
平均年齢	45.94歳
高齢化率	30%
面積	115.7ha
自治区たより	桂野町だより
集会所	桂野町区民会館

ともえ号で通学する小学生

旧 神明神社本殿（現 津島神社）

加茂川町

ガラ紡の時代

加茂川町は松平地区の南端を流れる郡界川沿いに位置し、平地が少なく山々に囲まれている。昭和45年の豊田市への編入合併時に、東加茂郡松平町大字川向村から豊田市加茂川町になった。対岸は岡崎市で、市域は違うものの昔から交流が盛んだ。

かつて電力エネルギーがまだ無かった頃、郡界川流域は水車によって動力を生み出せる立地条件に恵まれていた。明治時代中期ごろに始まったガラ紡にもこの水車が利用され、他地域からも多くの人が移り住んで紡績業で繁栄した。

さらに戦後の衣料不足もあり、1950年代にはガチャマン時代（織機を1回ガチャンとすると1万円儲かると言われた）と称される最盛期を迎えたが、その後は、西洋式紡績機に押されて急速に衰退した。

郡界川はこうして地域の産業を支えた一方、流域の交流も育んできた。子どもたちは魚を釣って楽しみ、泳ぎを覚えて育った。

名所・旧跡

●岩津発電所

明治30年に岡崎電燈（中部電力の前身の一つ）が郡界川につくった発電所で、現在、中電の現役最古の最も小さな発電所として知られている。長距離送電の先駆で、現在は140キロワットを発電している。

●八幡社

昭和12年に建造された反りのある高さ4m程の石垣が特長で当時の景気の良さがうかがえる。社殿は昭和61年に岐阜市の小金神社から移築されたものだ。

●巨岩上の常夜灯

田畑の中央に突きだした巨岩の上に石組みの祠と常夜灯が祀られている（年代不明）。

●法興寺

創建は江戸時代中期の寛保3年。御堂は江戸後期の弘化3年に建立されたものだ。本尊の阿弥陀如来立像は鎌倉後期作で高さ80㎝の寄木造り。平成14年に像の中から経文、印仏、巻子など多数の納入品が発見され、豊田市が文化財に指定（彫刻）した。

●名号岩

県道加茂川志賀線沿いの山肌にある高さ約5mの岩に「南無阿弥陀仏」の名号が刻まれている。知恩院79世門跡の山下現有の書を模したもので、明治44年に建立された。

●郡界川神社

郡界川流域の加茂川町と桂野町（豊田）、川向町と宮石町（岡崎）の4町が合同で祀る神社。毎年4月末には加茂川町の弘法さんを中心に各町各組でお接待が行われ賑わう。

名号岩

阿弥陀如来像（法興寺）

八幡社

自治区旗の由来

加茂川町には桜の木が所々にあり、その花びらを中心にあしらいました。加茂川と郡界川の「川」の字を入れ、背景は木々をイメージした緑色にしました。

自治区データ

世帯数	35世帯
人口	112人
平均年齢	56.84歳
高齢化率	40％
面積	84.3ha
自治区たより	かもがわだより
集会所	加茂川町公民館

我が町は、ガラ紡で栄えた町でした。私も小学生の頃、自宅工場で綿を紡ぐ手伝いをした。しかし、豊田市と合併した頃には、ほとんどの工場が廃業し、高齢化、過疎化が進んだ。その頃から、自治区の絆を一層深めようと、ふれあい祭りや年頭会の開催等より多くの人が交流できる地域行事を大切に、あたたかい町づくりをしている。

令和2年度 区長
大原 博通さん

九久平小学校区

大内

自治区旗の由来

大給の「大」と下河内の「内」を交え、中に「人」を配置。「大」は広さを「内」は仲間内を「人」は支え合いを表し、総合的にこの印の「大・内・人」は区民の優しい気持ちを表現しました。

大給城址

家々の多くは滝川沿いに点在

松平町制施行後の昭和37年に「大字下河内」と「大字大内」となり、豊田市への合併後の昭和48年に「大内町」となった。

大内町は周囲が山に囲まれた地域で、家々は盆地に集落をつくり、その多くは滝川沿いに点在している。

戦後、松平の各地域と同様に、大内町でも川沿いに住居を併設したガラ紡工場が数多く作られた。最盛期には全世帯の7割程をガラ紡工場が占めていたが、時代の流れで消えていった。

大給城址

大給城址は滝川左岸の標高207mの地にある山城で、西・北・東は古式の石垣で固められていた。東側を区切る石塁は石をタイル状に貼りつけてあり、他とは技法が全く異なる。この城で最古の石積み部分と評価されている。

大給城には「米流し岩」という岩があり、言い伝えによると、合戦の際に水が豊富にあると思わせるため米をこの岩から流して滝のように見せたという。

大給城は大給松平氏の本城であり、初代乗元から5代真乗まで続いた。6代家乗は家康の命で上野国（現群馬県）へ国変えとなり、大給城は廃城となった。本丸東方の尾根上には初代乗元の墓があり、石柵で囲って地元で守っている。

滝脇合戦

大給松平氏の4代親乗が同族の滝脇松平氏の所領を奪おうとした一族の内紛があり、「滝脇合戦」と言われている。大給松平氏が滝脇松平氏の初代乗清、2代乗遠を討ち取り、一時、滝脇は大給領分となった。

その後、滝脇松平氏の3代乗高が復讐のため大給城に夜襲をかけ、城は焼失。大給松平氏の4代親乗は一時は尾張に去った。5代真乗は細川城に移り大給松平氏は一時復活したようだが、その後の大給・滝脇両家の関係は不明である。

高齢化が課題

大内自治区は松平の中でも高齢化率が高く、また高齢者を抱えている世帯も多いため、介護問題や徘徊問題が増えると予想される。こうした問題を少しでも解決しようと徘徊高齢者の捜索体制を整えたが、まだ多くの問題を抱えている。今後も区民の協力と知恵でよりよい体制を整え、安心安全な自治区にしたい。

大内町公民館

太田川河川敷

自治区データ

世帯数	42世帯
人口	165人
平均年齢	53.07歳
高齢化率	41%
面積	196.6ha
自治区たより	大内町だより
集会所	大内町公民館

大内町には大給城址がある。区として維持管理に力を入れている。次に国道301号線に架かる大内橋からわずかに見える夫婦滝（めおとたき）がある。工事終了後の梅や桜との景色を楽しみにしている。ともに、散歩コースとしておすすめである。ついでに滝川ふれあい工房や更科へ！

令和2年度 区長
平松 学さん

鍋田

乳子守神社

銘石の産地で知られる鍋田

鍋田町は松平橋から北へ500mほどの巴川左岸に位置する。昭和36年の松平町制施行の時に「鍋田」と「曲り」が統合し、昭和45年の豊田市への編入合併で鍋田町となった。

昭和初期まで農業、林業、養蚕を中心としていたが、昭和7年の水害により加茂川・滝脇から移住があり、電力によるガラ紡が始まった。昭和35年以降は会社勤めの家庭が増えた。

松平地区では江戸時代から石材業が営まれていた。特に鍋田町付近で採掘される花崗岩は「鍋田石」と呼ばれ、きめ細かく、粘りがあり、加工もし易いため墓石に最適な石として好まれてきた。現在は全国に出荷できるほど採れないため貴重な銘石となっている。

名所旧跡

●乳子守神社

安産の神様として有名。鍋田住民が戦国時代の天文4年に白山の宮を勧請し、「千子の宮」と称して安置したのが始まりといわれる。境内の灯籠は江戸後期の天保12年に、滝脇陣屋の領主松平数馬が奉納したもの。

●お社禹神

社口神、村開拓の守り神。

●報徳神社遥拝所の碑

二宮尊徳翁が祭神。

●神明社跡の碑

合祀された曲り神明社の本殿跡。

●国谷熊野神社御手洗池の碑

池で手を洗い参拝する。

●明治天皇大葬遥拝所の碑

大葬の日の遥拝所。

●梟ヶ城

標高254mの通称「城段戸」山頂にあり、創築・廃城時期は不明。曲り村誌によると「一夜梟しきりに鳴きて敵襲を告ぐるが如し、よって城中戦備を整えて待つ。果して敵襲ありしも撃退するを得たり」という伝説がある。

鍋田音頭

①おらが鍋田は　乳子守様よ
　愛の結晶の　子を守る　安産願うて　椎の葉を受けりゃ
　産婆遅れて　赤い顔　鍋田良いとこ　産（うぶす）の神産の神

②東山　夕日にやけて　宵の明星が　きらきらと　ままよ流そか　巴の川に　やるせない身を　歌にきく　鍋田よいとこ　景色どこ　景色どこ

③おらが鍋田で　糸錘ぐ乙女
　年は18　綿の花　第三日曜にちょいと出て会おか　窓にあの娘の　影を待つ　鍋田よいとこ　錦糸どこ　錦糸どこ

昭和10年頃制作
作詞作曲者不詳

石切場

ふれあいまつり

自治区データ

世帯数	46世帯
人口	151人
平均年齢	55.19歳
高齢化率	46%
面積	127.5ha
自治区たより	ちごもり
集会所	鍋田区民会館

鍋田自治区は、巴川、鍋田川、梟ヶ城等、自然に恵まれたすばらしい環境の中にあり、ここに住んでいることに誇りを持っている。このすばらしい自然環境を子、孫の代まで維持する為に少子高齢化も含め自治区としてこれらに対応する施策を考慮していかなければならない。

令和2年度 区長
服部 博さん

自治区旗の由来

乳子守神社を中心に自治区民みんなで支え合い助け合うことを表現した。

王滝

四季折々に美しい景観の王滝渓谷

王滝自治区には四季を通して多くの人が訪れる観光地「王滝渓谷」がある。一帯は奇岩が累々と重なり、また桜、新緑、紅葉など四季折々の美しい景観が人々の眼を楽しませてくれる。東海の昇仙峡とも言われている。

この地域には南北朝時代の延文元年には既に人が住んでいたことが分かっており、明徳から宝徳年間（南北朝～室町時代）に「築山」がひとつの集落として認められたとある。明治維新の頃の築山は妙昌寺と鈴木17戸によって構成されていた。

昭和32年頃はガラ紡の全盛期で、総世帯の半数以上が家内工業として携わり、県内外から多くの職工を雇って活気があった。その後、化繊が主流になるとガラ紡は衰退。昭和40年にはほとんどが操業を停止し、サラリーマンに転職していった。

昭和45年の豊田市への編入合併と同時に、それまでの「築山」から、王滝渓谷にちなんで「王滝町」に町名を変更した。

名所・文化

●妙昌寺

南北朝時代の延文元年、薩摩国生まれの僧侶無外円昭がこの地に足を留めて草庵をつくり、円昭庵と称したのが始まり。三河鈴木氏一族の御廟所として知られている。

●制札

戦国時代の永禄3年、松平元康（家康）が松平入りした折に記した禁制札や古文書が妙昌寺に所蔵されており、豊田市指定文化財となっている。

●下馬の刻

妙昌寺参道から渓谷右岸を20mほど登ると、「下馬」と刻まれた大岩がある。寺領は江戸幕府からの御下賜領であったので、大名や旗本と言えども馬や籠に乗っての通行を禁止されていた。

●伊保神

築山村誌に「万霊を祀りし所にして霊水湧き出で、古より御神水と称して難病に効あり。イボに塗布して霊験あらたかなり」とある。

●不動明王

明治末期、王滝渓谷の通称不動山に長野県の荒沢不動尊の分身が祀られた。5月には参道のドウダンツツジが開花し眼を楽しませる。

●弁財天

明治末期に王滝渓谷の蛇淵水を堰き止め、水力を利用した水車式製綿工場が開設された。「河川神」として水辺に弁財天を祀り、晴天続きの時は村人が集まって雨乞いをしたという。

歴史ある妙昌寺と自然豊かな山河に囲まれた静かな自治区です。妙昌寺には、龍の骨、徳川家康が松平元康と名乗っていた当時の制札、室町時代末期から江戸初期の書状、江戸参府の際に使用した三ツ葉葵の寺紋入の駕籠が本堂の天井から吊るされて今に伝わっています。

令和2年度 区長
鈴木 敏道さん

自治区旗の由来

王滝の「王」の字を囲む上部は、山々の緑で表し、下部は清らかな水の流れを青い色で表した。

王滝渓谷

自治区データ

世帯数	37世帯
人口	125人
平均年齢	57.06歳
高齢化率	49%
面積	109.3ha
自治区たより	王滝だより
集会所	王滝自治区公民館

妙昌寺

松平元康制札

小学校紹介 03

九久平小学校

School Data

所在地	九久平町寺前3-2
開　校	明治6年12月
生徒数	217名（令和2年度）

自然と触れ合う学習に力を入れている「みどりの学校」。特徴的なのは「僕の木・私の木」の活動だ。各児童が一年ごとにお気に入りの樹木を選び、定期観察・記録を行うことで自然への親しみの心を育んでいる。他にも、伝統的に行われてきた梅林園での「梅の実採り」、東山学習園等を縦割り班で散策する「みどりのオリエンテーリング」、樹木をモチーフにした「みどりのジャンボカルタとり集会」など、幅広い自然学習を行っている。

学校・学校区のいいところ

4年生
天野 結菜さん

3年生では綿を育て組み紐を作り、4年生では滝川の生き物を調べて生き物図鑑を作りました。自然いっぱいの学校で生活すると心もきれいになります。

1年生
中平 心龍さん

ぼくたちの学校では、いろいろなたてわりかつどうがあります。まい日のそうじでは、おにいさんたちが、ほうきのつかいかたやごみすてのしかたをやさしくおしえてくれてとてもうれしいです。

3年生
勝部 美來さん

私たちは、自分の好きな木を選んで1年間観察します。木の成長や色の変化などを見るのがとっても楽しいです。友達と観察することで自分では気付かなかった発見をすることもあります。

3年生
築瀬 唯翔さん

九久平小学校は緑にかこまれています。近くには、東山学習園とみどりの国があります。木の実を拾ったり、たくさんの木のべん強をしたりできます。自ぜんがいっぱいで楽しいです。

5年生
坂井 晴さん

地域や保護者の方がみどりのオリエンテーリングや梅の実採り等の行事や登下校の見守り学習園の草刈りをしてくださいます。おかげで安心して活動できることに感謝しています。

九久平小は祖父も父も通った学校です。父が通っていた頃は、アヒルを放し飼いにしていたそうです。私は、季節ごとに変わる木々やみどりの国にいるうさぎを見るのが好きです。

6年生
小幡 望月さん

学校のまわりには、いろいろなお店があります。わがしやさんでは、きせつによってちがうおいしいおかしをうっていて、楽しみです。町たんけんでは、どの方も親切に教えてくれました。

2年生
中根 彩菜さん

2年生
川本 龍己さん

九久平地区には、ともえ川や森があって、あそびに行けます。松平わだいこもあります。いろいろなところでえんそうします。たたいているすがたは、かっこいいです。

滝脇町

自治区旗の由来

郡界川の流れと二畳ケ滝をイメージして作りました。

滝脇合戦の地

戦国時代の長享元年、松平宗家4代親忠の九男乗清が滝脇に移り住み、滝脇松平氏の祖となった。松平宗家に仕えたが、同族の大給松平氏に攻められて初代乗清、2代乗遠ともに討ち死にした（滝脇合戦）。

滝脇は一時は大給領分となったが3代乗高が復讐戦に勝利。乗高は家康に仕え、三河一向一揆や二俣城攻めで戦功をあげた。関ヶ原の戦いの後、4代乗次は加茂郡7ケ村と額田郡日影を領して滝脇600石で陣屋を構えた。

名所旧跡

●石御堂

三河地区最大の一揆「加茂一揆」が蜂起した地。江戸時代後期の天保7年、年貢や諸物価の引き下げを求めて起こり、足助から挙母の城下に及ぶ247ヶ村から1万3千人が参加する大規模な一揆に発展した。

●長松院

滝脇松平氏の墓所。滝脇合戦で討ち死にした初代乗清、2代乗遠、乗遠の長男正乗の3人の墓石がひっそりと並んでいる。3代乗高が長松院を創建して葬った。

●二畳ケ滝

巴川の支流の郡界川にある滝。岩盤が重なり激流が2層となって落下するのでこの名がある。滝壺の横に大蛇が住むといわれる穴があり、「目撃した人は蛇の毒気で熱病になる」「滝壷には竜神が住み、滝に触れると祟りがある」など多くの伝説が残る。

長老の記憶

―昭和7年の大水害で殆ど山肌がさらけ出しになり、郡界川は氾濫し下流で大被害を起こした。

昭和12年に支那事変が始まり太平洋戦争へと発展。兵隊に召集された村人に神社前で出征式を行い、祈りながら送り出した。

戦後は中洞より長沢へ連なる県道の延長工事が完成して便利になり、また郡界川の洪水に備えて堰堤が2ヶ所造られた。

中電に電力線の延長を申込み、ほとんどの家でガラ紡を営むようになった。働き手も必要で人も増えた。岡崎市内との取引に必要なバス運行のため、地区でバスの車庫や運転手の宿舎を用意した。

昭和34年9月の伊勢湾台風では大きな被害が出た。神社境内にあった廻り舞台付きの農村舞台「二畳座」が倒れ、その瓦と少々の材料で旧集会所を建てた。

ガラ紡は時代の流れで衰退し、人々は働き場所を求めて外へ出かけるようになった。昭和40年以後からであろう―

滝脇町は、二畳ケ滝をシンボルに持ち、松平地区の東南に位置する面積が広い自治区で、住居は30戸です。夏は意外に涼しく、ホタルの飛び交う日もあり、冬は雪景色を見ることもできます。近い将来、岡崎サービスエリアにインターができると聞いています。5分で行けるので楽しみにしています。

令和2年度 区長
佐野 勝之さん

二畳ケ滝

自治区データ

世帯数	30世帯
人口	128人
平均年齢	62.63歳
高齢化率	53%
面積	188.2ha
自治区たより	滝脇だより
集会所	滝脇町集会所

長松院

石御堂観音

長沢町

郡界川のホタルが自慢の長沢町

長沢町自治区は松平地区の最南端に位置し、東は下山地区、南は岡崎市に接している。山林は郡界川に迫り、わずかな平地に住居や田畑が点在している。郡界川には多くのホタルが生息し、季節になると長沢橋付近の見所に遠来の車が停まるほどだ。

歴史と変遷

江戸時代には東地区を「遊平村」、西地区を「西大沼村」と称していたが、明治11年の合併で長沢村と改称された。かつての名残で東地区は津嶌神社を、西地区は稲荷神社をそれぞれ祀っている。

長沢町はほとんどが山林であるため、豊かな暮らしとは程遠かったようだ。一歩山へ分け入ると、かつての田圃の跡が随所に見られる。わずかでも水があれば開墾した先人の苦労には頭が下がる。

そうした貧しい暮らしを一変させたのが、郡界川の豊富な水力を利用したガラ紡だった。朝鮮戦争特需によるガチャマン景気（織機をガチャンと織れば万の金が儲かるという意味）には数棟の製綿・製糸工場が稼働し、いずれも数人から10人程度を雇っていたという。その多くは地域外からの資本によるものだったが、地域内でもガラ紡工場を営む家庭が現れた。

昭和40年代になるとガチャマン景気は終焉を迎え、ガラ紡は姿を消した。やがて自動車産業の飛躍にともない、現金収入を求めて豊田・岡崎の工場へ勤める人が増えていった。

名所旧跡

●女郎岩

郡界川の右岸にある島田髷を思わせる岩は「女郎岩」と呼ばれており、岡崎の遊郭から逃れて来た遊女がここで淵に身を投げたという伝説がある。駆け落ち相手のことは不明だが500mほど離れた対岸に「殿石」と呼ばれる岩がある。

もみじウォーク

（平成22年から10年実施）

長沢町自治区の特筆すべきイベントに「もみじウォーク」がある。県道沿いにカエデの巨木が群生しており、その壮観を広く知ってもらおうと毎年11月中旬に区民総出で準備・運営していた企画だ。自治区外からも200名前後の参加者があり、お汁粉、五平餅、豚汁の無料接待や、とりたて野菜の格安販売が好評であった。

令和2年度 区長
酒井 眞さん

合併50周年おめでとうございます。合併当時の長沢地区には、岡崎市に生活の基盤を置く方もいて、合併反対もあったと聞いています。未来に足先を向けて、歩みだした松平と歩調を合わせ、一体となり地域発展に寄与した先輩たちに感謝と敬意を表します。

自治区旗の由来

一級河川郡界川に生息する源氏ボタルの乱舞は地域のシンボルである。「ながさわ」の輪、区民憲章のもとでまちづくりにむかう住民の姿勢をひかり、たくましく舞う蛍で表現した。

もみじウォーク

自治区データ

世帯数	31世帯
人口	80人
平均年齢	62.00歳
高齢化率	63%
面積	145.8ha
自治区たより	長沢広報
集会所	長沢町自治区区民会館

区民会館

郡界川清流

林添町

晴暗寺

松平のほぼ中央

林添町自治区は松平地区のほぼ中央に位置し、中央を滝川と国道301号が並行しながら自治区を縦断している。地区内に小規模な住宅団地ができ若い世帯も増加傾向だ。

平成27年に総工費約4千万円をかけて完成した新区民会館は耐震構造で、玄関から各部屋に至るまですべてバリアフリー仕様。高さ3mの天井は広さとゆとりを感じさせる。

戦後はガラ紡一色

林添の「ぞれ」には、緩やかな傾斜地の集落という意味や、焼き畑農業が行われた所という意味があると言われている。古くは小川村と呼ばれ、戦前は40戸ほどで1戸あたりの耕地面積も30アールと少なく、わずかな水田と山で採れるワル木や木炭などで生活を支えていた。

明治時代には滝川の流れを利用してガラ紡が始まった。電力が引けた昭和9年頃からはその数が徐々に増え、戦後の好景気には9割近くの住民がガラ紡に従事していた。

松平氏最初の領地

当地は南北朝時代の永徳年間（1381年頃）には足助郷から来た藪田源吾忠元が治めていた。その藪田氏を破り配下に従えたのが高月院付近を治めていた松平氏だ。松平氏の最初の領地が林添であったことは当地の長い歴史の中でも特筆すべきことだろう。

晴暗寺と小太郎橋

「晴暗寺」はもともと三松庵と称していたが、松平太郎左衛門8代信和の寄進によって江戸中期の元禄8年に堂宇を整え、晴暗寺と号するに至った。林添の領主であった藪田源吾のものと伝わる供養塔も残っている。なお境内の一角で雄々しく天に伸びる樹高30mの「コウヨウザン」は豊田市の名木に指定されている。

晴暗寺下の滝川に架かる「小太郎橋」は、額田町樫ノ山に住む力持ちの小太郎が架けたと言われている。別名「添田橋」とも「殿様橋」とも呼ばれており、殿様橋の所以は松平家初代親氏公が村人を指揮して架けたからだとも言われる。

コウヨウザン

小太郎橋

課題は交通量増加

自治区の課題としては生活道路でもある国道301号の交通量の急激な増加がある。下山地区にトヨタ自動車の研究開発施設が完成すると更に交通量が増え、地元住民の生活に与える影響は少なくないだろう。今後のまちづくりの大きな課題だ。

自治区データ

世帯数	79世帯
人口	293人
平均年齢	48.57歳
高齢化率	33%
面積	200.0ha
自治区たより	HAYASHIZOREはやしぞれ
集会所	林添町区民会館

明治の初頭から林添として合併の経緯もなく今日にいたっており、区民の結束力は強く、自治区運営は極めてスムーズです。平成27年2月に完成した区民会館は、カラオケや卓球、麻雀クラブ等で利用率が高く、隣接のふれあい広場もグランドゴルフなどに使われ、区民間の交流が盛んな自治区です。

令和2年度 区長
柴田 金年さん

自治区旗の由来

林添町の「林」を図案化したもの。林添町は国道301号のS字カーブに沿って家が点在する。林の木を男女にたとえ、人と人の絆によって自然とともに繁栄する様を表現した。HAYASHIの「Y」は若葉、ZOREの「O」はハートを意味する。

小学校紹介 04

滝脇小学校

School Data

所在地	滝脇町切石洞18-1
開　校	明治6年11月
生徒数	35名（令和2年度）

愛知県から「愛鳥モデル校」に指定され、長年の「愛鳥活動」が全国的に高い評価を受けている学校。児童たちは6年間を通して地域の野鳥たちを見守り、その生態から取り巻く環境まで調査・発表を行っている。活動を通して育まれるのは児童同士の結束力や自然に親しむ優しい心、そして地域の人との繋がりだ。OBや保護者で構成される「つばさと根っこの会」で、野鳥の森の整備などの愛鳥活動を続ける卒業生も多い。

滝脇小学校で聞きました 学校・学校区のいいところ

校区には、二畳ヶ滝という滝があり、年に1回、地域の方と一緒に清掃活動をしています。美しい自然があり、カワガラスやオオルリ、キビタキなどたくさんの野鳥を観察することができます。

5年生
福井 寿樹さん

たきわきしょうがっこうのいいところは、1ねん生から6ねん生まで、だれとでもあそべるところです。ながほうかには、みんなといちりんしゃおにごっこをしています。みんなであそぶととてもたのしいです。

1年生
中村 櫂さん

5年生
大橋 亮介さん

滝脇のいいところは、鳥がいるところです。いろんな種類がいます。勉強をしていると、鳥の声が聞こえてきます。ぼくはうれしくなります。冬にはえさやりをします。ジョウビタキやアオジが来ます。ルリビタキのオスを見てみたいです。

今年から新しくチャボが3羽やってきました。全校のみんなで名前をつけました。オスはタッキー、メスはポチャとチャコといいます。えさをやると食べてくれて、とてもかわいいです。大切にそだてたいです。

2年生
引地 咲月さん

3年生
江島 梢さん

野鳥の森では、くりやどんぐりを拾ったり、こん虫をさがしたりしています。自ぜんがいっぱいで、楽しく遊べるところです。すぱこをかけると、毎年シジュウカラなどがえいそうし、す立つ様子をかんさつできます。

4年生
服部 雫月さん

滝脇小学校では、年に3回、夏鳥、冬鳥、お別れ探鳥会を行っています。探鳥会では、めずらしい鳥を見られたり、他の学年の子と一緒に鳥を探したりできて、とても楽しいです。

滝脇小学校のすてきなところは、野鳥を観察したり、営巣調査をしたり、他の学校では味わえない楽しい体験がたくさんできることです。また、6年間の愛鳥活動を通して生態系への関心が深まり、貴重な体験ができました。

6年生
小峠 直太さん

石楠

自治区旗の由来

石楠のSとNで、区民（人）の発展を表現。

所石と大楠が統合して石楠に

石楠町は松平北部の足助境に位置し、巴川に沿って県道岡崎足助線が通っている。「石楠」の名は昭和36年の松平町制施行時に統合した「所石」と「大楠」からきている。

「所石」の名は至る所に岩がごろごろしていたことから名付けられ、「大楠」は楠木谷といわれる谷に大きな楠木がたくさんあったことから名付けられたと言われる。現在は楠木は無いが谷には「楠の碑」が残っている。

巴川に沿って走る岡崎足助線は「七里街道」と呼ばれ、かつては往来する人も多く医者、鍛冶屋、豆腐屋、染物屋などができた。さらにこの地には、竹はもとより炭や薪などの林産物が多く出たので、牛や馬を使った運送屋もあって岡崎方面へ運んでいた。

起倒流棒の手宗家を継承

石楠町には「棒の手」があり、宗家として起倒流を継承している。昭和32年10月には愛知県無形民俗文化財の指定も受けた。平成7年からは豊松小学校「棒の手クラブ」の指導もしており、棒の手が世代間のコミュニケーションを担っている。

長老の記憶

―私が小学生の頃（昭和初期）は、自治区の中央を通る重要な市道もたいへん狭く、曲がりの多い急な坂道でした。大人は大八車にブレーキを取り付け、薪や木炭、竹などを運搬していました。当時は養蚕や林業での生計でした。

石楠の木炭は優良で消費者に喜ばれていました。竹も良質なマダケで、高級な提灯や蛇の目傘等の材料として出荷していました。竹の皮の収入も大切でした。

時の流れと共に社会情勢が変わり、市道も拡幅され立派な道路となりました。昭和30年半ばからは会社勤めの方が多くなりました。子ども達はバス通学となりました。小さい自治区ではありますが、名所・旧跡もたくさんあり良いところです。皆様のご協力で住み良い自治区になるようまちづくりを頑張りましょう―

石楠名所めぐり

名所旧跡

天下峯、弘法山、産之神、お蛇さん、動き岩、お犬さん、津島神社の石垣、小食沢連の丸石、御社口、観音堂、秋葉神社、御岳山、山の神、棒の手記念碑、馬頭観音、幻の青年会館、正月瓶、木炭倉庫、お鍬さん、長塚、白瀬発電所の水路、橋場などがある。

世帯数・人口ともに最も少ない自治区ですが、誇れるものが沢山あります。その第一が区民の「人柄」と「まとまりの良さ」です。棒の手、集落営農組合、天下峯、彼岸花の群生地もあります。

令和2年度 区長
岡野 文治さん

自治区データ

世帯数	22世帯
人口	65人
平均年齢	54.68歳
高齢化率	46%
面積	204.2ha
自治区たより	石楠たより
集会所	石楠公民館

区行事

彼岸花の群生地

豊松

王滝渓谷

7集落で豊松町に

「豊松」の名は昭和36年に松平が町制施行した後、7つの集落（大田・茅原・大津・羽明・二口・椿木・歌石）が一つになるにあたって、地域内に豊松小学校があることから住民意見で決まった。すでに学校名が「豊松」だったのは、明治22年の大合併で現在の松平地域に5カ村が誕生した際、豊栄村と松平村が組んで「豊栄村・松平村組合役場」を設けていたためと思われる。明治35年に豊松尋常小学校が開校している。

なお昭和37年に7集落で豊松を名乗った際には、地域の発展に繋げようと神社の合祀も行われ「豊松神社」が誕生している。この地域の画期的な歴史だ。

産業遺産「乗越隧道」

明治時代に仁王川から取水して食糧を増産する計画が持ち上がったが、資金難で頓挫していた。しかし第2次大戦中の昭和19年、酷い日照りで稲作が不能となり、仁王川からの取水計画が再び持ち上がった。乗越峠の中腹を掘削して延長260mの隧道（トンネル）を造る大事業だった。

工事は昭和20年に始まり住民たちも並々ならぬ労力奉仕をしたが、予想外の難工事で遅々として進まず、3年経っても僅か70mしか掘削できなかった。

昭和23年に県や国からの工事費がついて機械や専門技師も投入され、連日連夜の工事で同年7月に隧道がついに貫通。昭和25年に総工費180余万円、出役人夫延べ4200余人、ダイナマイト360余貫を費やした大工事が完了した。この隧道の入口は今も残されている。

乗越隧道　豊松側出口

巴川舟運を足助まで

明治初期からますます活気を呼んだ巴川舟運（しゅうん）はこの地域の歴史文化として語り継がれている。

この巴川舟運を足助まで伸ばして更なる繁盛をと願い、工事を始めたのが羽明村の河合全衛門だった。当時の羽明村は松平数馬（滝脇松平氏）の知行所で、代官羽川於義夫氏が舟運事業の陣頭指揮にあたったと伝わる。羽川氏の屋敷は今もあり墓地も現存している。

観光地「王滝渓谷」

巴川の支流仁王川沿いの「王滝渓谷」は、巨岩と清流の美しさから〝東海の昇仙峡〟とも呼ばれ、総延長3㎞の散策コースでは、春は梅や桜、夏は緑、秋は紅葉と季節の彩りが観光客の目を楽しませている。また5カ所の園地や梅園、吊り橋、王滝湖かけ橋、バーベキュー場等もあり、最上流部の古美山園地に点在する岩山はフリークライミング愛好家に人気だ。

自治区データ

世帯数	89世帯
人口	316人
平均年齢	51.94歳
高齢化率	39%
面積	395.2ha
自治区たより	とよまつだより
集会所	豊松区民会館

豊松は、冒頭の記にあるように、7つの集落が1つになって豊松としてスタートし、神社も合祀され10月の例大祭には神輿が7集落を周ります。昭和45年に一旦は中止となった火縄銃の奉納を平成6年から復活させました。昨年は、豊松営農組合を立上げ農地保全のスタートを切りました。

令和2年度 区長
河合 政美さん

自治区旗の由来

1本の松から、枝の松葉が7つの組を表している。真円をつくり一致団結してぶれない形をつくっている。中央は子どもたちにも読みやすいひらがなで表現した。

坂上町

自治区旗の由来

町内のシンボル六所山、炮烙山、仁王川と8つの集落を表す。

六所山と炮烙山を持つ広大な自治区

坂上町自治区は8集落からなり中央を清流仁王川が流れている。東部は六所山（616m）と炮烙山（683m）があり、足助地区・下山地区に隣接。西部は王滝渓谷の上流部にまでおよぶ広大な地域だ。縄文時代の遺跡が多く、古くから人々が生活していたことが伺える。史跡も多い。

六所山麓にある豊田市総合野外センターは、松平が豊田市に編入合併した昭和45年に市長の特命で完成した。豊田市民の多くが小中学生のころ自然観察やキャンプで訪れている。

松平親氏公が六所明神を勧請

南北朝時代の永和3年に松平親氏公が吉木山頂（六所山）に奥州（宮城）塩釜六所明神を勧請して六所神社を建立。以来、この地には歴史的な神社仏閣が盛んに建立され栄えてきた。

六所山はかつて吉木山や蜂ヶ峯と呼ばれていたが、六所神社の創建で六所山あるいは明神山と呼ばれるようになったといわれる。

昭和36年の松平町制施行時に9つの大字が統合し、地域名募集により「坂上」と決まった。旧字名は消滅したものの今でも町内の行事や行政では使われている。

●**8集落名＝旧字名**

日明（ひあかり）、南篠平（みなみささだいら）、真垣内（まながいと）、東（ひがし）宮口（みやぐち）、仁王（におう）、杉ノ木（すぎのき）、下屋敷（しもやしき）、梶立（そだめ）。

祭り

8集落には6つの神社があり、更にそれぞれの集落に山の神、天王社、社口社、御鍬社、観音堂などがある。なかでも六所神社の秋の例大祭は神輿行列が厳かに行われ、この地域を代表する祭りだ。

主な名所旧跡

●**B29の里**

昭和20年に米軍B29爆撃機が日本の戦闘機飛燕の体当たり攻撃により墜落した地。

●**乗越隧道**

仁王川の水を豊松地区へ供給した。

●**安全寺**

松平親氏公が天下峯山頂で天下泰平、国家安穏を祈願し、その山麓に創建したと伝わる。

●**不動の滝**

六所山の登山道脇に流れている。

●**原田十吉翁石碑**

日清戦争の平壌攻撃で玄武門を先登した勇士。

●**六所神社舞台**

六所神社下宮境内にある明治5年建設の農村舞台。豊田市指定文化財。

●**古美山園地**

王滝渓谷の上流部。フリークライミング岩が有名。

六所山、炮烙山、天下峯、仁王川など豊かな自然と、広大な面積が特色です。市の総合野外センターがあり、自然観察やキャンプ地として多くの人が利用しています。今後は「豊田市の軽井沢」となるよう、野外センターを中心に教育レジャーの場として開発すると良いと思います。

令和2年度 区長
中泉 鎮二さん

天下峯

自治区データ

世帯数	117世帯
人口	316人
平均年齢	56.82歳
高齢化率	48%
面積	924.7ha
自治区たより	坂上ふれあいニュース
集会所	坂上町公民館

六所神社舞台

六所山不動の滝

松平

松平自治区の概要

松平自治区は山野に囲まれ、東からの松平川と北からの沢連（そうれ）川が合流して滝川となっている。道路は国道301号が東西に通り、豊田市街地と下山地区方面を結んでいる。

松平地区の由来でもある「松平」の名は、松の生い茂る様をもって名付けられたとの伝承がある。江戸前期には「加茂郡松平村」、江戸後期には「加茂郡松平郷」の表記がある。

明治39年、東加茂郡の松平村・小川村・志賀村・穂積村の一部・豊栄村の一部が合併して東加茂郡松平村が誕生。旧松平村の住所表記は「東加茂郡松平村大字松平」となった。さらに昭和45年の豊田市への編入合併で「豊田市松平町大字松平」となり、同48年の新町名設定で現在の「豊田市松平町」となった。

徳川家の先祖 松平氏発祥の地

南北朝時代の康永年間に公家の在原信盛が入郷し、現在の松平東照宮の地に居を構えたとされる。

同じく南北朝時代の永徳の頃、郷主の松平信重が連歌の席に誘った流浪中の僧、徳阿弥の人となりに惹かれ、次女の水姫（すいひめ）に婿養子として迎え入れたとされる。徳阿弥は還俗して松平太郎左衛門親氏を名乗り、松平氏の始祖となった。

松平太郎左衛門家は大正時代までこの地に居住していた。

名所旧跡

●松平氏館跡

国指定史跡。現松平東照宮。現存する水濠や石垣は松平家9代尚栄により関ケ原の合戦のあと築かれた。当初は八幡宮と称する屋敷神だったが、江戸初期の元和5年に家康公を合祀。昭和40年に親氏公も合祀した。

●産湯の井戸

東照宮境内にあり、松平家は代々この水を産湯に用いた。岡崎城主松平広忠の子、竹千代（徳川家康）が誕生した際も、この水を竹筒に入れ早馬で届けたと言われる。

●高月院

国指定史跡。南北朝時代の貞治6年、足助次郎重宗の子、重政（寛立上人）が松平郷主在原信重の援護を受け「寂静寺」として建立。約10年後、親氏公が本尊や堂などすべて寄進して「高月院」と改め、松平氏の菩提寺となった。徳川家康公の時代に寺領100石を与えられ、明治維新まで厚い保護を受けた。山門や本堂は第3代将軍家光が建てたと言われている。

●松平城址

国指定史跡。松平東照宮の南の御城山に親氏公が築いた山城。山腹に約400mの空堀跡が残る。室町時代の典型的な山城であったようだ。

令和2年度 区長
鈴木 昭弘さん

松平町には、全員参加の組織が3つあります。自治区に加えて、「松平郷ふるさとづくり委員会」、「八幡神社松平東照宮神社運営委員会」です。これらの組織が雇用を生んで住みよい松平の形成の持続化につながっています。松平の歴史・文化を誇りに思う心を未来につなげてゆきたいです。

松平氏館跡 お堀と東照宮

自治区データ

世帯数	60世帯
人口	226人
平均年齢	50.62歳
高齢化率	37%
面積	296.3ha
自治区たより	松平の郷
集会所	松平町集会所

産湯の井戸

高月院

自治区旗の由来

松平家に代々伝わる家紋を自治区の区旗とした。

小学校紹介 05

豊松小学校

School Data

所在地	坂上町郷敷1-1
開　校	明治5年10月
生徒数	48名（令和2年度）

「子どもたちに笑顔の思い出を」をテーマに掲げ、地域を愛する心を育む活動を行っている。史跡を巡ったり、地元出身で活躍する人の話を聞く「六所の集い」には保護者も参加し、児童と共に地域への愛着を深める地域学習の機会となっている。また、地域の教育力を活かす授業サポートは、児童と共に楽しむ地域の方が生きがいを感じる場にもなっている。児童だけでなく保護者、地域の人たちみんなの笑顔が溢れる学校だ。

豊松小学校で聞きました 学校・学校区のいいところ

ぼくの家の近くは、しぜんがいっぱいで、山や川があります。朝近くの川で、よくカワセミを見ます。青く光ってとてもきれいです。2年生は3人しかいないけど、みんな元気でなかよしです。学校に行くのが楽しみです。

2年生
中泉 陽詩さん

4年生
川合 來空さん

ぼくの、すんでいる松平は自然がいっぱいあって学校や周りの人たちもやさしいゆたかな町です。学校は自然や鳥のことを学ぶ学校です。

3年生
中根 柚乃さん

1年生
蟹 なつめさん

わたしの学校は、鳥の学校です。学校には明るい先生や友だちがいます。わたしの学校には、ヤマガラ、ヒヨドリ、セグロセキレイ、コゲラなどいろんな鳥が来ます。たん鳥会では、いろんな場所に鳥を見に行っています。

わたしの1ばんすきなばしょは、王たきけいこくです。川であそぶことがすきだからです。なつには、スライダーをしたり水でっぽうであそんだりします。小さなさかなをとったり、バーベキューをしたりすることもすきです。

僕たちの学校は鳥の学校です。手にひまわりの種をのせて出すとヤマガラが食べに来ます。みんな鳥が大好きで、鳥の名前をたくさん知っています。愛鳥ジャンボカルタ会は盛り上がります。元気いっぱいの学校です。

6年生
鈴木 颯改さん

5年生
大橋 京剛さん

豊松のいいところは、自然にかこまれていることと歴史が長い建物が多いことです。特に好きなところはカワセミのようなきれいな鳥がいることや東照宮のてんじょう画などです。良いところなので残していきたいです。